

# 清溪川再生(韓国)

清溪川は以前、鍾路(チョンノ)と乙支路(ウルチロ)の間を流れていた川だったが、川にふたをして上に道路が走るようになり、さらにその上に高架道路が造られ、川は完全に暗渠となった。しかし、1968年に建設された清溪川高架道路が築30年を経て老朽化が目立ち、数年前から補強、大型車両の通行が規制されるなどの対策がとられたが、そのままでは危険な状態となった。そのような問題に対処しながら、高架道路を撤去して川を復元させることを公約に掲げたイ・ミョンバク市長が2002年の市長選挙で当選。一気に清溪川復元事業は具体化することになった。高架道路を撤去し、河川を復活させる都市再開発事業は例がなく、世界的に注目されている。

## ◆ 再生のポイント

- 高速道路の撤去
- 清溪川の復元

## ◆ 清溪川概要

清溪川は、ソウル市中心街を流れる都市河川。流域面積約50km<sup>2</sup>、延長約11km。1394年にソウルが朝鮮王朝の都となって以来、ソウル600年の都城の中心を流れている。ソウルを地理、政治、文化、社会的に区分する象徴的な境となってきた。都心と郊外をつなぐ高架道路は1971年に完成したが、老朽化が進んでいた。復元事業では石橋等文化遺跡の復元や伝統行事の再現も予定されている。ソウル市が予想する工事費用は約3600億ウォン。



## ◆ 再生のために実施した事業

### 【高速道路の撤去】

600年の古都ソウルの清溪川を復元するもので、暗渠化した上の平面道路とその上空の高速道路を撤去し、自然型河川を復元する。

ソウル600年の歴史を回復し、伝統とモダニズムが調和する文化都市をつくることにより、ソウルを環境にやさしい、人が中心の都市空間に生まれ変わらせる象徴的的事业として、清溪川を自然河川へ復元すること、および、周辺の都市開発が図られている。

### 【清溪川の復元】

新しい清溪川は洪水対策のため、深さは現在より2~2.5m掘り下げ、川幅も10~30mになる。水深も30cm以上を予定。そのために1日に必要な水9万3700トン地下水と漢江(ハンガン)から引いた水でまかなう。また新しい清溪川には歩道専用の橋が2個、歩道車道兼用が5個、車道専用が14個、合計21個の橋が造られる。橋のデザインはすでに公募が行われ、455点の応募から優秀作が選ばれた。また李朝時代に清溪川にかかっていた石橋「水標橋(スピョギョ)」も復元される。川の両側には自転車道路と散策路、休憩空間がつくられ、また堤と道路には木が植えられる。



出典：国土技術政策総合研究所資料「自然共生型流域圏・都市再生に向けて一人・水・大地と環境」

吉川勝秀 国土技術政策総合研究所

ソウル市 HP : <http://japanese.seoul.go.kr/chungaehome/seoul/main.htm>